

第38回 ICT活用教育の推進に関する 事業改善検討委員会

- 【資料1】 前回のご意見について
- 【資料2】 GIGAスクール構想支援事業
- 【資料3】 次期教育情報システム構築の進捗状況
- 【資料4】 教育におけるICT活用事例
- 【資料5】 生成AI利活用に向けた取組
- 【資料6】 SAGAハイスクールDI人材育成事業「SEIRENKATA」 (紙面報告)
- 【資料7】 県立高校6次化実践プログラム (紙面報告)
- 【資料8】 教育DXスタートアップ事業 (紙面報告)
- 【資料9】 CM&プレゼンコンテスト (紙面報告)

前回（第37回：令和7年7月23日）のご意見について

| 端末活用

このスライドは前回のスライドで示したものと同じものです。下線部分が、前回から追加した部分となります。

【前回のご意見】

- ・1人1台端末の活用状況調査（県独自調査）では、端末活用について子どもがどう感じているか、子どもの声を聞くことが大事ではないか。
- ・授業で、子ども達がどんな場面で、どの程度端末を使っているかを把握する必要があるのではないか。

【分析結果と今後の対応】

- ・教職員の調査結果だけではなく、子どもの感じ方についても聞き取りが必要と判断した。
- ・1人1台端末活用状況調査（県独自調査）の集計結果と子どもの感じ方の聞き取り結果を、【資料2】に掲載。
- ・全市町教育委員会を訪問して聞き取りを行い、学校側の声を集めている。
- ・聞き取りの結果を、【資料2】に掲載。
- ・全国学力・学習状況調査で、子どもがどう感じているかを分析し、今後の対応を考える。
- ・集計結果と今後の対応を、【資料2】に掲載。

前回（第37回：令和7年7月23日）のご意見について

2 端末持ち帰り

【前回のご意見】

- ・家庭での端末活用状況や、どのくらいの人数が利用しているか。

【分析結果と今後の対応】

- ・家庭での端末活用状況の把握が必要と判断した。
 - ・「一人一台端末活用状況調査（県独自調査）」の中で、家庭での端末活用に関する状況結果を、【資料2】に掲載。
 - ・SAGA E コネクト「先生たちの広場」で、持ち帰りの事例を集める。
 - ・研修会にて、持ち帰りの事例を紹介する。
- 】 【資料2】に掲載。

3 次期教育情報支援システム

【前回のご意見】

- ・県立学校のシステムは明記されているが、市町がどのように関わるのか方針が示されていない。どうなるのか。

【分析結果と今後の対応】

- ・市町の担当者への情報共有を行ってきたが、県と市町の教育長が同席の場においても、県や市町の教育情報システムに関する情報共有が必要である。
- ・県教育委員会と20市町の教育長が出席する『ICT活用教育推進協議会』の中で、県の教育情報システムは令和8年度末で終了することを伝えた。各市町の教育情報システムについては、現時点での導入状況と今後の導入予定の状況を示した。県教育長から、「今後、各市町で新しいシステムを導入またはシステムを更新する際は、各市町教育委員会の状況と教職員の市町間の異動を考慮のうえ、整備をお願いいたします。」と各市町の教育長に説明した。

GIGAスクール構想支援事業

重点校・準重点校支援について

【重点校・準重点校の位置づけ】

- ・重点校 → 授業での活用についての児童生徒の回答が「ほぼ毎日」、「1週間に3,4回」を合わせて20%程度に達していない学校 27校
県教育DX推進グループ担当者が主に支援を行った。
- ・準重点校 → 授業での活用についての児童生徒の回答が「ほぼ毎日」、「1週間に3,4回」を合わせて20~30%程度の学校 29校
エリアリーダーが主に支援を行った。

【今年度の重点校・準重点校支援において力を入れたこと】

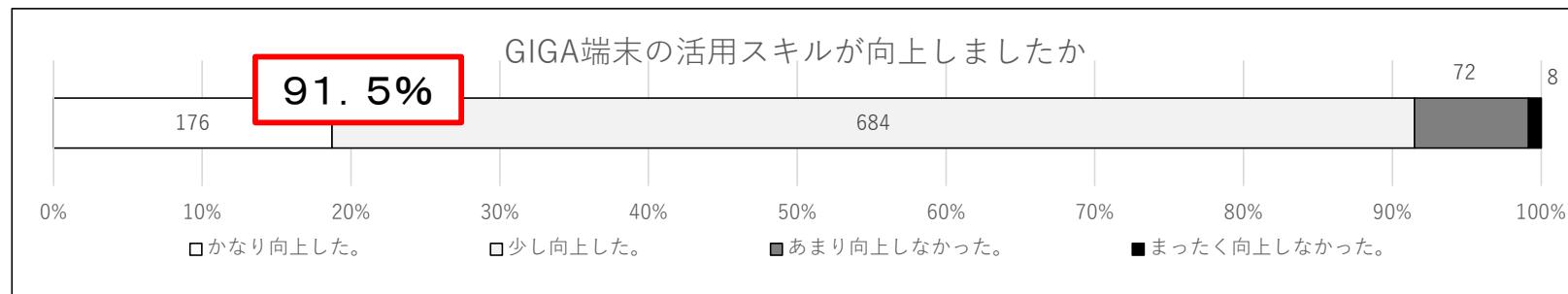
- クラウドを活用して、パワーポイントの共有機能の体験など、汎用性が高いスキルを中心に一緒に取り組む。
- 児童生徒が使う視点で研修を進める。
- Eコネクトや情報モラル教育のサイトなど、すぐに使えるサイトや情報の共有を図る。
- 学校の中で支援員や推進リーダー以外に、頼れそうな先生にスポットを当てて苦手としている先生たちとつなげる。

重点校・準重点校支援の研修後アンケート結果

「実践事例から、GIGA端末を有効に活用した授業について、理解を深めることができましたか。」の質問に対して「とても理解が深まった。」「少し理解が深まった」と答えた教員は、98.4%



「GIGA端末の活用スキルが向上しましたか。」の質問に対して「かなり向上した。」「少し向上した。」と答えた教員は、91.5%



一人一台端末に関する研修を受けた先生たちの声

- ・これからの子どもたちが円滑に学習に取り組むには、必要不可欠なものだから、しっかり、自分が学んで、活用して、子どもたちが使えるように指導できるようになろうと思いました。(60代以上)
- ・こういう機会がないと、なかなか立ち止まって授業プランを考えることがないため、とても勉強になりました。夏休み中に自分自身が研究して2学期以降にいかしていきたいと思います。(50代)
- ・これまで、パソコンの利用に関して、沢山の機能があるのに生かしきれてないという思いで、モヤモヤしていましたが、具体的な活用方法を知ることができ、2学期から取り入れることができそうなものも得られることができました。大変充実した時間でした。(40代)
- ・どんな場面で活用できるか考えて、少しずつ活用していきたい。(30代)
- ・いろいろな活用法を知ることができた。やりたいことはたくさんあり、利用の可能性も無限だが、使いこなせるまでの技術がないのでその技術を高めることができる研修機会となってよかったです。(20代)

重点校・準重点校支援の効果は高い。
今後も研修を継続し、県全体の底上げを図る。

令和7年度1人1台端末の活用状況 県独自調査結果 (R7.11～R8.1実施)

【成果】

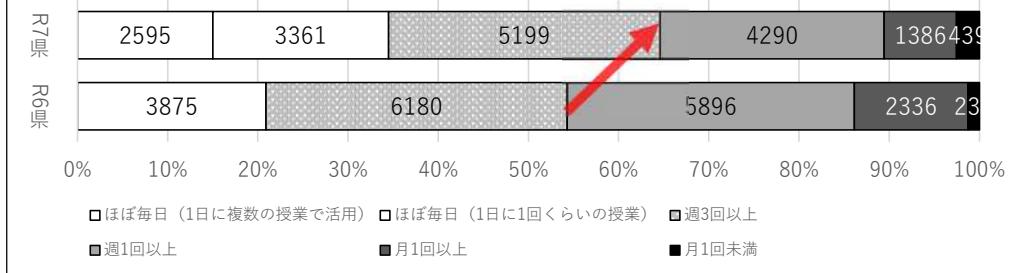
「授業での活用」
「授業外での活用」
「持ち帰りでの活用」

昨年度と比べると、
活用率が上昇

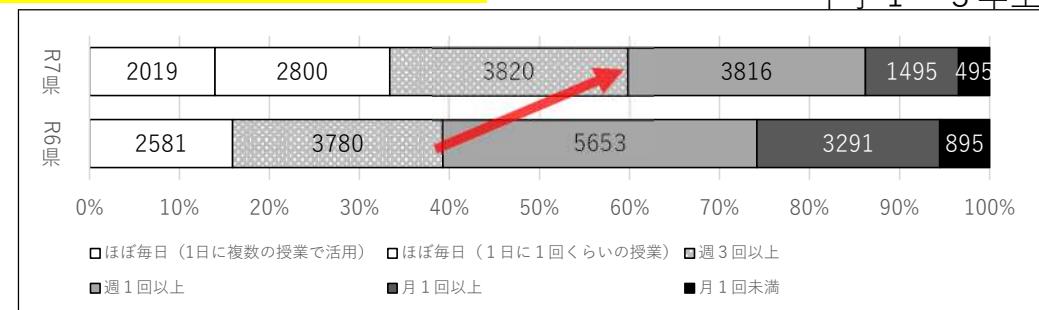
R6年度とR7年度との比較（県独自調査より）

小学4～6年生

授業の中で タブレットをどのくらい使いましたか

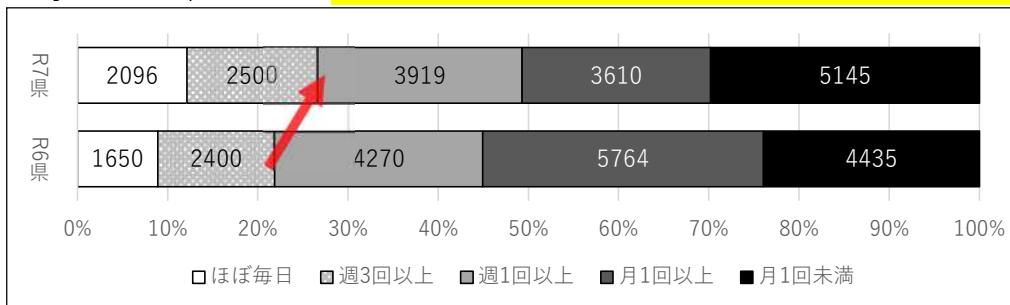


中学1～3年生

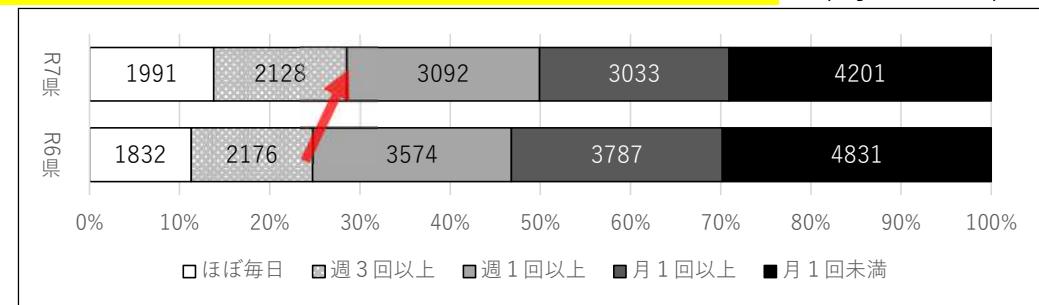


小学4～6年生

授業外の時間（朝の会や帰りの会休み時間など）に タブレットをどのくらい使いましたか

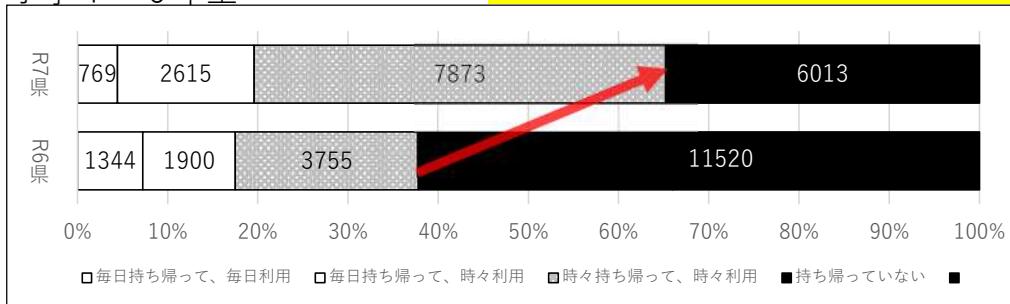


中学1～3年生

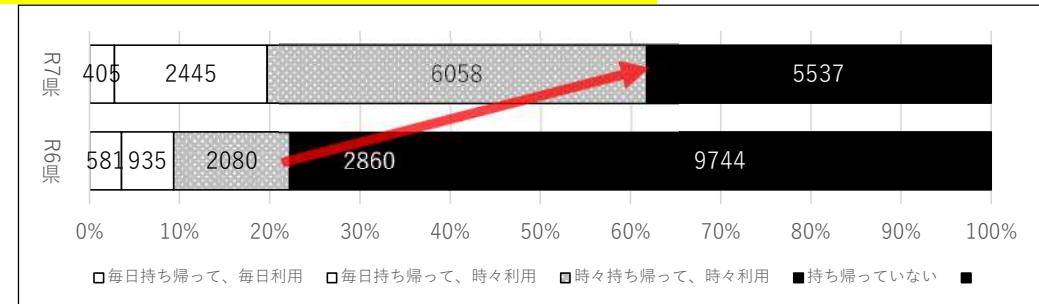


小学4～6年生

今年度、家に持ち帰って タブレットをどのくらい使いましたか

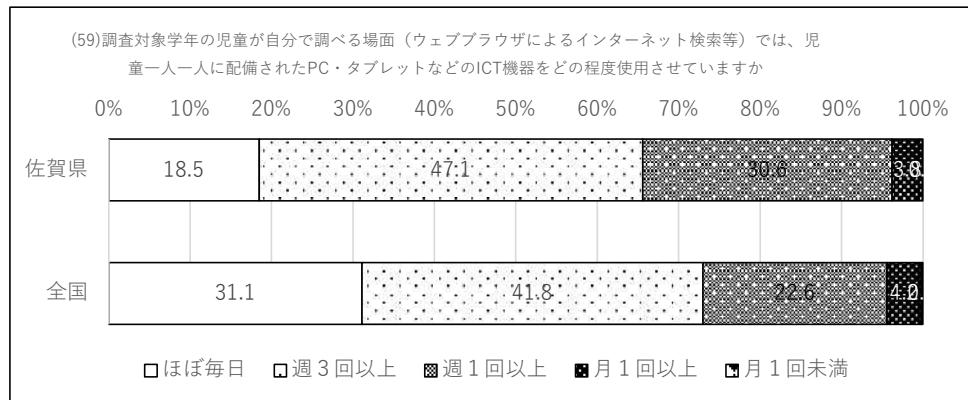


中学1～3年生

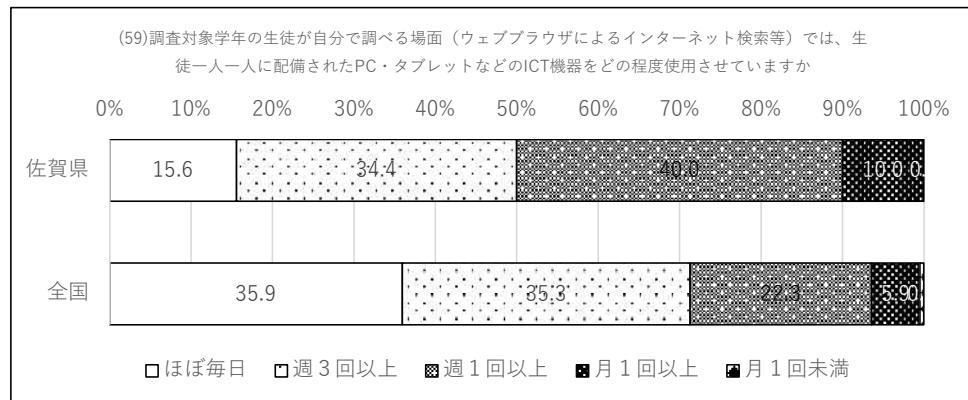


全国学力・学習状況調査（令和7年4月 学校質問調査）より

自分で調べる場面

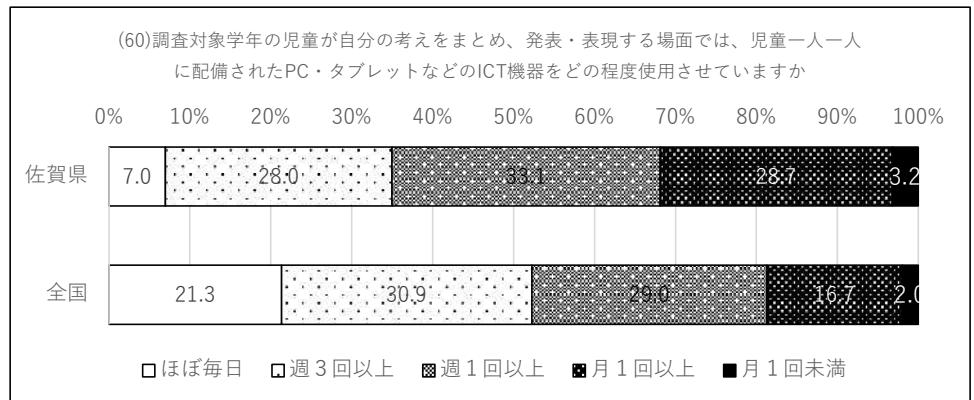


小学校

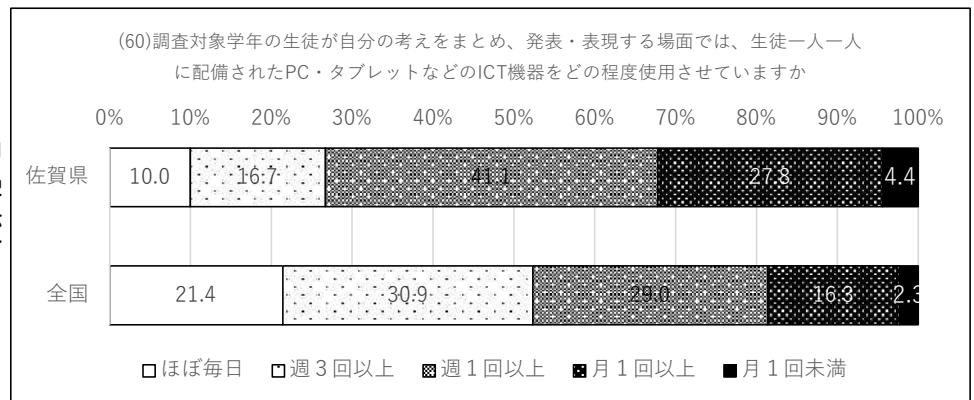


中学校

考えをまとめる場面、発表・表現する場面



小学校



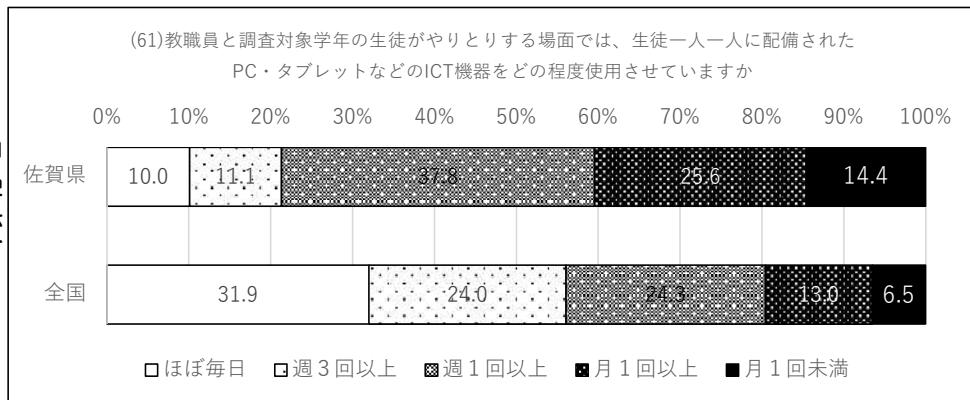
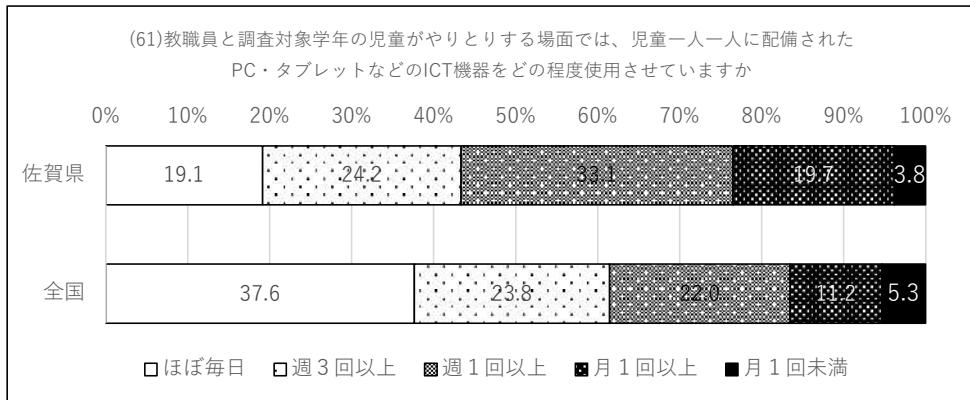
中学校

KPIのR8目標値は、週3回以上が100%

KPIのR8目標値は、週3回以上が80%

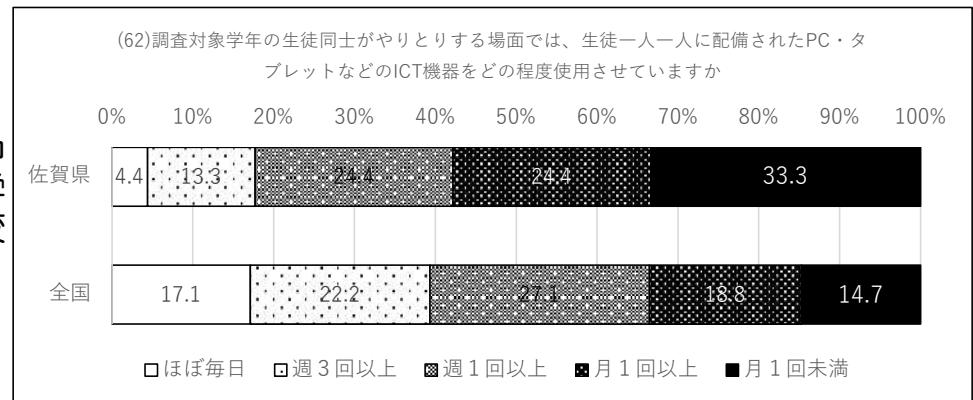
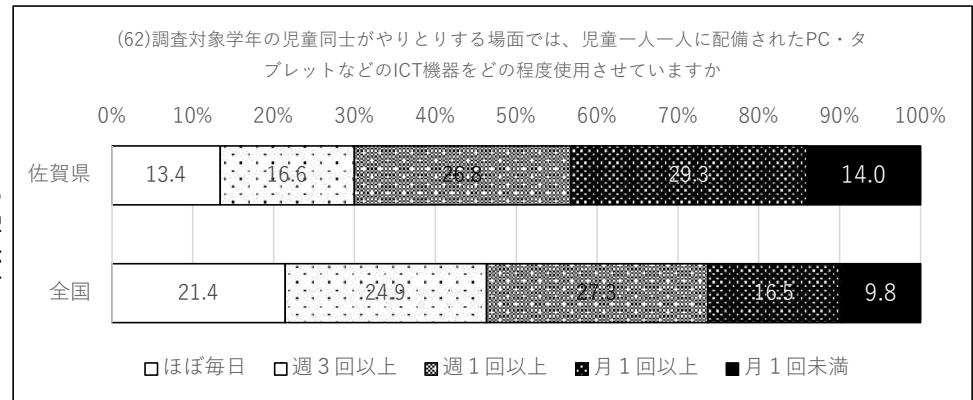
全国学力・学習状況調査（令和7年4月 学校質問調査）より

教職員と児童生徒がやりとりする場面



KPIのR8目標値は、週3回以上が80%

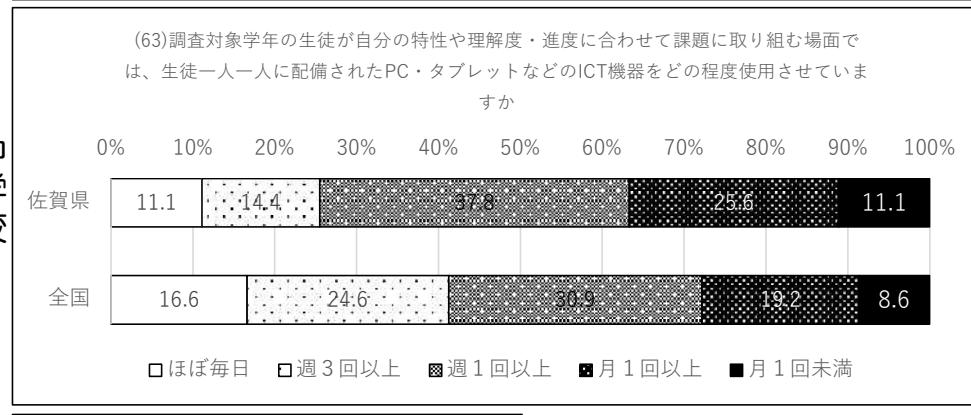
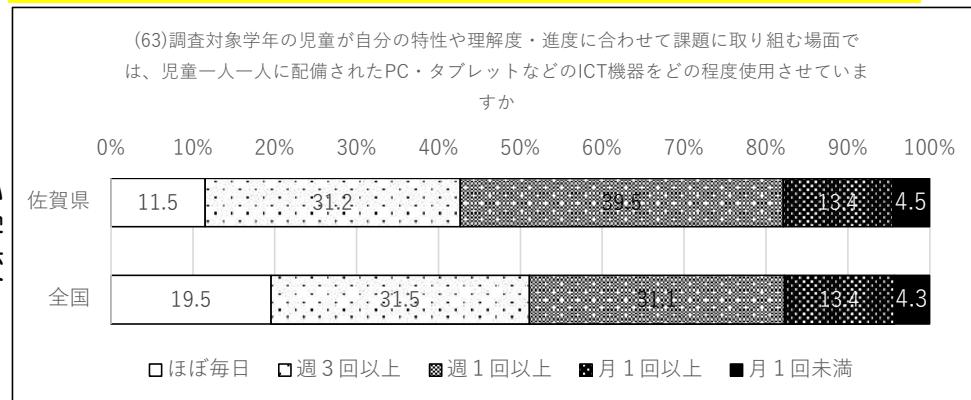
児童生徒同士がやりとりする場面



KPIのR8目標値は、週3回以上が80%

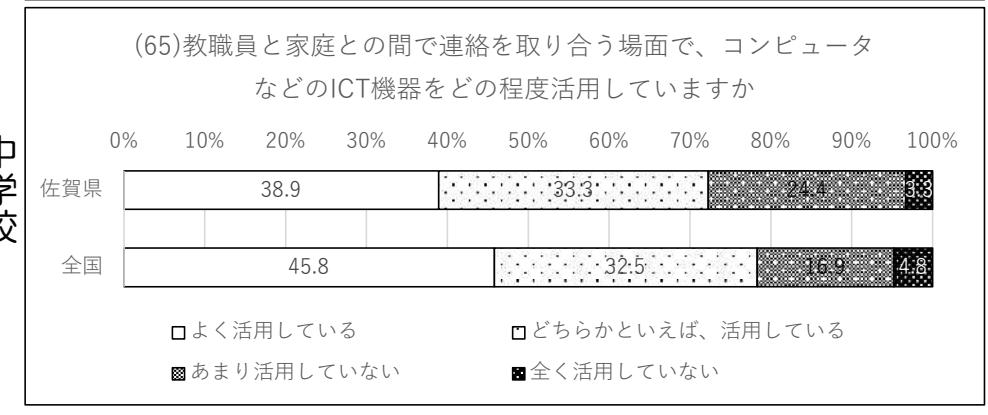
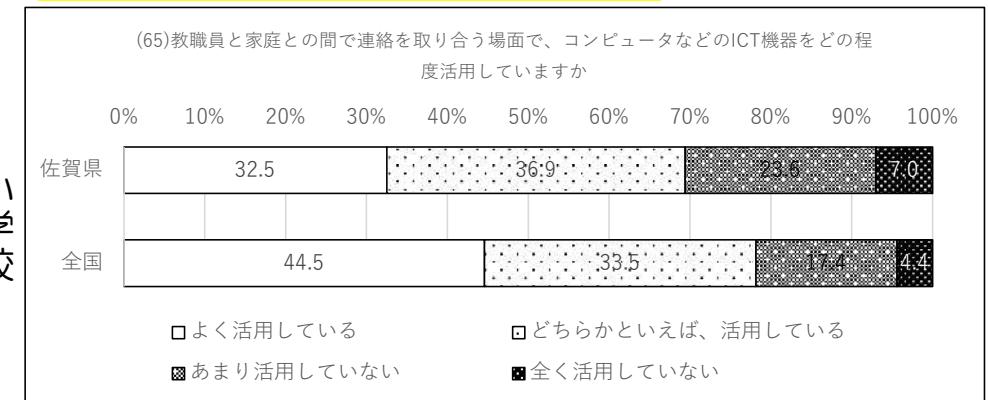
全国学力・学習状況調査（令和7年4月 学校質問調査）より

自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面



KPIのR8目標値は、週3回以上が80%

教職員と家庭との間で連絡を取り合う場面



【全国学力・学習状況調査（令和7年4月 学校質問調査）結果分析まとめ】

授業におけるICT活用については、**教師が一方的に教える授業から、児童生徒が主体的に学ぶ授業への転換が必要である。**端末は使用時のみ充電保管庫から取り出すのではなく、**児童生徒が必要な時に即座に利用できるよう、常に手元に置ける環境を整えることが重要である。**また、教職員と家庭との連携におけるICT活用は、中学校の方が小学校よりも進んでいる。特に、欠席連絡等のシステム化を進める学校が増加しており、**今後さらに活用が拡大することが期待される。**

|人|台端末を活用した授業を受けた児童生徒の声

- ・パソコンを使った授業で、**自分の好きなテーマを決めてできるのでやりやすい。**
- ・ノートでやる時よりもパソコンの方が**気軽に友達の意見も見えるから楽しい。**
- ・文字で書くよりタブレットの方がやりやすかったし、**友達に感想を見せやすくよかった。**
- ・紙でカードを動かすよりもタブレットでカードを動かした方が、**移動させやすく、よかった。**
- ・タブレットだとノートに書く時より時間がかかるけど、**時間がかからないでスラスラ書けるし、結構簡単に使って、学んだことを残すことができて便利で使いやすい。**
- ・ノートでまとめたことを、タブレットで写真で写して、**すごく便利だなと思った。**
- ・画面投影機能を使うと、いちいち前に行かずに、**写真を撮ってすぐに発表できる。自分のものが映ると嬉しい。**
- ・クラウドを使うと、**他の人の考えを見れるので参考になる。更により多くの人の考え方を見る能够があるのでいいと思う。**
- ・クラウドを使うと、友達がどんなノートを書いているか考えが手元で見れていいと思う。**目が悪くても手元で見れて、ズームもできるから集中しやすい。**
- ・タブレットを使ったり、教科書を読んだりして、**よく理解し、次に進めることができたからよかった。**
- ・タブレットや電子黒板を使ったおかげで、**自分の意見も相手の意見も共有しやすかった。**
- ・グループのみんなと一緒にパワーポイントを作ることで、**1つに考えをまとめることができた。**

【資料2】

【課題】

※授業での使用が「月1回以上」、「月1回未満」と回答した教員の回答より

- ・教師自身が活用に慣れていない
- ・普段の授業では、教科書やプリント等で十分に事足りるため利用頻度は少ない。ドリル教材についてもプリントを活用しているため、利用する場面がほぼない。
- ・タブレットの出し入れに時間がかかることにに対する授業進度への心配
- ・ルールを守れない児童生徒への対応に追われる
- ・破損の心配

県全体の活用における二極化

【対応策】

・学習観の転換の一層の推進

教師主導から児童生徒の主体的な学びの推進
個別最適な学び、協働的な学びの推進

→ 各学校・エリア、研究指定校で推進を図っていく

・校務や持ち帰りでの活用について、事例の発信

・活用が進んでいない重点校・準重点校への研修

・教育事務所、市町教育委員会、エリアリーダーとの連携強化

・学校全体での組織的な活用を推進するための管理職研修

- ・公開授業
- ・教育DX通信
「DX-Eさが」
- ・佐賀県ICT活用
教育サイト
「SAGA Eコネクト」

今後、対応が必要だと思われる項目

教育DXの推進に向けた好事例の更なる創出

令和8年度の具体的な新しい取組(案)

研究指定校において、授業での活用だけでなく、校務での活用などの好事例の横展開を図る。授業動画、校務での活用の動画をSAGA Eコネクトに掲載する。

市町間、学校間の端末活用における二極化への対応強化

エリアリーダー（県内20名）と教育情報化推進リーダー（各学校1名）の合同研修会を開催し、端末活用に関する情報交換を行い、各学校の取組に活かしてもらう。

次期教育情報システム構築の進捗状況

2025年12月末時点:全体的に予定通り進捗中。



※次期システムの見栄えや操作感に慣れることを目的に令和8年秋頃からデモ環境を構築予定です。

※操作研修はオンラインを想定(実画面を用いた研修)しており、一部動画配信も計画しています。

主な業務変更が発生する点

次期教育情報システムに移行することで変更が発生する主な業務を以下に示します。

① 校務支援システムをベネッセ校務クラウドに刷新

現行の機能に加え、生徒・保護者との情報展開（欠席連絡、お知らせ等）が可能、ダッシュボードによる情報の一元化
※入力した情報はリアルタイムで生徒や保護者に公開されるものもあるため注意（次頁参照）。

② 電子文書決裁システムの導入

現在：紙に印刷→押印→持ち回り（時間がかかる）
次期：システム上で決裁・文書確認が可能（校務用端末を持ち帰りテレワーク等でも承認可能）

③ クラウドストレージへの移行

現在：学校ごとのファイルサーバ（容量制限、学校外アクセス不可）
次期：Teams/OneDrive（大容量、どこからでもアクセス可能）

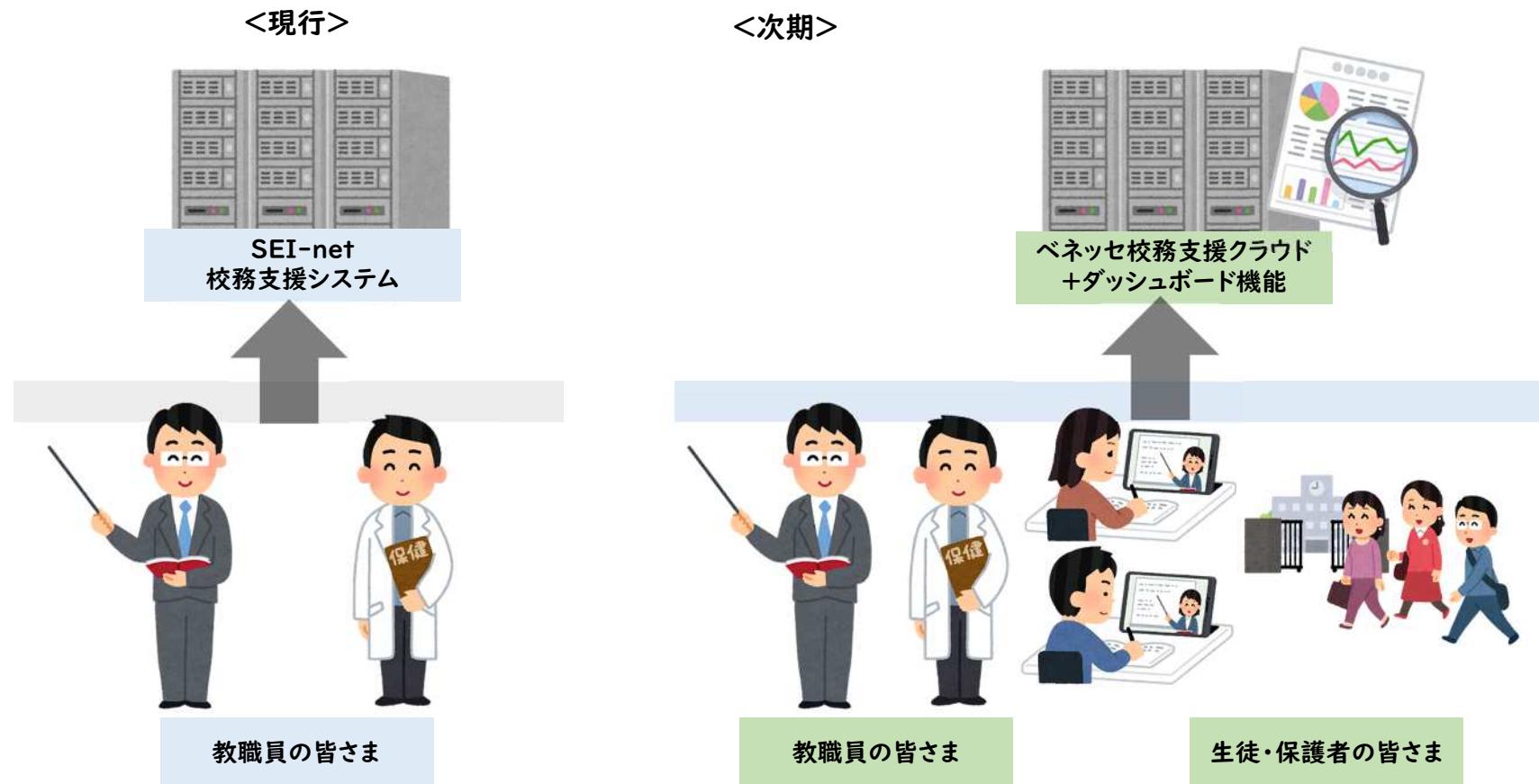
④ アカウント統合と端末1台化

アカウント：

現在：校務用、学習用、MS用など複数（覚えるのが大変で長い）
次期：@education.saga.jp に統合（教職員）、@st.saga.jpへ短縮（生徒）
端末：校務用・指導者用の2台 → 1台に統合、校務用PCは持ち帰って使うことが可能に

次期校務支援システムの利用者について

次期校務支援システムとなるベネッセ校務クラウドでは、現行の教職員に加えて生徒・保護者も利用するようになる。教職員が登録反映した成績や出欠情報、保護者へのお知らせなど、情報がリアルタイムで生徒や保護者に公開される項目もあるため、生徒の自己学習や情報の利活用ができる一方で、しっかりと確認をして公開する必要がある。



令和7年度 教育におけるICT活用事例発表

目的:教職員が実践したICT活用事例を公募し、特に優れているものについて紹介及び表彰を行い、各学校の教育実践及び校務DX化に向けた取り組みの参考となるよう県全体に共有し、本県教育の質の向上につなげる。

募集内容: 1人1台端末を活用した「活用事例」及び「デジタル教材」、校務DX化に向けた「活用事例」(学校教育全般に関するもの)

審査の観点:【観点①】「新たな学び、働き方改革」へのアプローチ 【観点②】創意工夫 【観点③】普及展開

小・中・特支(小・中学部)部門

最優秀賞

武雄市立御船が丘小学校 木原 航 教諭

「ICTや生成AIを効果的に活用し 個別最適な学びを目指した実践」(国語)



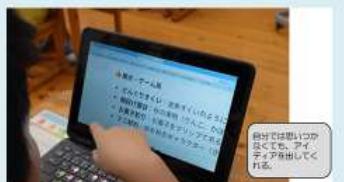
木原先生発表動画



優秀賞

有田町立有田小学校 松永 利一郎 教諭

「特別支援学級における、AIを活用したコミュニケーション能力の育成」(自立活動)



松永先生発表動画



高・特支(高等部)部門

最優秀賞

県立牛津高等学校 丸田 紘路 教諭

「ICTを『学びの基盤』とした『個別最適・協働的』な学びを目指して(国語)



丸田先生発表動画



優秀賞

県立嬉野高等学校 原 一寿 教諭

「ICTを活用した授業実践 ～データ分析による学習改善～」(商業)



原先生発表動画



校務DX部門

最優秀賞

県立中原特別支援学校 松永 泰臣 教諭

「特別支援教育と生成AI～生成AIは特別支援教育教員の福音となるか～」



松永先生発表動画



優秀賞

嬉野市立轟小学校 馬場 智弘 教諭

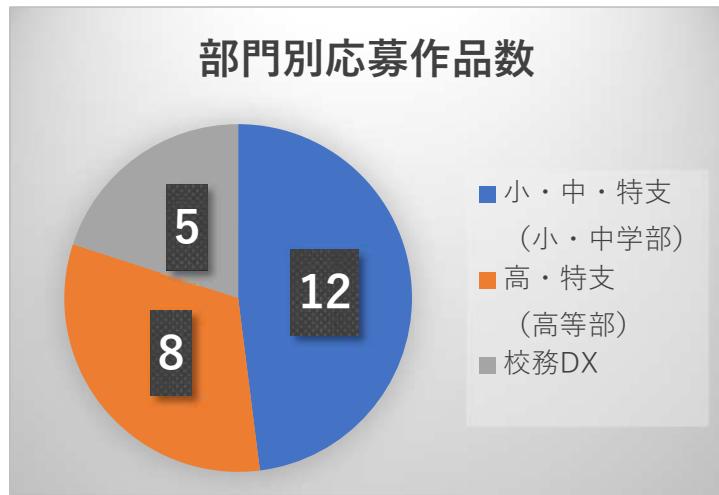
「働き方改革と業務効率化の観点から、教育現場の負担を軽減する具体的な取組」



馬場先生発表動画



令和7年度 応募作品の内訳と主な使用ソフト



主な使用ソフト	
ソフト名	使用作品数
Canva	7
Googleスプレッドシート	5
Googleスライド	5
Google フォーム	5
Microsoft Excel	5
Microsoft PowerPoint	5
Microsoft Teams	5
ChatGPT	4
Padlet	4
Google クラスルーム	2
Microsoft Whiteboard	2
NotebookLM	2
Scratch	2
クラッシャー	2
百問縦糸	2
ふきだしくん	2

今年度の作品：

応募された25作品のうち、生成AIを活用した事例は9作品で、全体の36%を占めていた。

主な使用ソフトとしては「Canva」「ChatGPT」「NotebookLM」などが挙げられ、これらを用いた生成AIの活用場面が確認された。

次年度（案）：

従来のコンテスト形式からアップデートする。

- ・教科リーダーを中心に、各教科や校務DXに関する生成AI活用事例を提出。
- ・有識者による直接的なアドバイスやフィードバックの場を設けることを検討。
- ・「SAGA E コネクト」に掲載し、共有・参考資料として活用。

生成AI利活用に向けた取組

➤ 学校現場における生成AI利活用促進に向けて、令和8年度は以下の取組を実施

① 生成AI利活用ガイドラインの改定

- ・児童生徒の生成AI利活用に関する内容の充実（後述）

② 生成AIパイロット校の指定

- ・生成AIの利活用を促進するため、県立学校に生成AIパイロット校を指定（後述）

③ 教職員向けの生成AI研修の実施、利活用事例の収集・共有

- ・公立学校教職員を対象とした生成AI利活用研修を開催
- ・生成AI利活用事例の収集、横展開

生成AI利活用に向けた取組(① 生成AIガイドラインの改定)

- R7年度に県生成AIガイドラインを改定。教職員の利活用を念頭に実践的な情報を充実。
- R8年度は児童生徒の利活用促進に向けた内容の充実を予定。

現行ガイドライン 目次 ※ R7.8.8改定

【概要編】

1. 本ガイドライン策定の趣旨
2. 生成AIの教育利活用における基本姿勢
3. 生成AIについて
 - (1) 生成AIの概要
 - (2) 代表的な生成AI
 - (3) 基本的な考え方
 - (4) 利活用の際の留意点

【利活用編】

1. 生成AIの教育利活用について
 - (1) 利活用推進に向けたステップ
 - (2) 教職員が校務で利活用する場面例
 - (3) 生徒が学習活動で利活用する場面例
2. プロンプト(指示文)について
 - (1) プロンプト作成の6つのポイント
 - (2) プロンプト例(校務・学習準備)
3. 利活用する際のチェック項目

【別冊】プロンプト集

R
7
度
追
加



R8度改定

【改定内容】

児童生徒の生成AI利活用に関する内容の充実

- 児童生徒の利活用させる場合の基本的な考え方、留意点
 - ・学習指導要領に示す資質・能力の育成に寄与すること
 - ・児童生徒の発達段階等を踏まえつつ、情報モラルを含む情報活用能力の育成を充実させていく
- 利活用方法の例示
 - ・授業や学習活動での利活用方法を例示

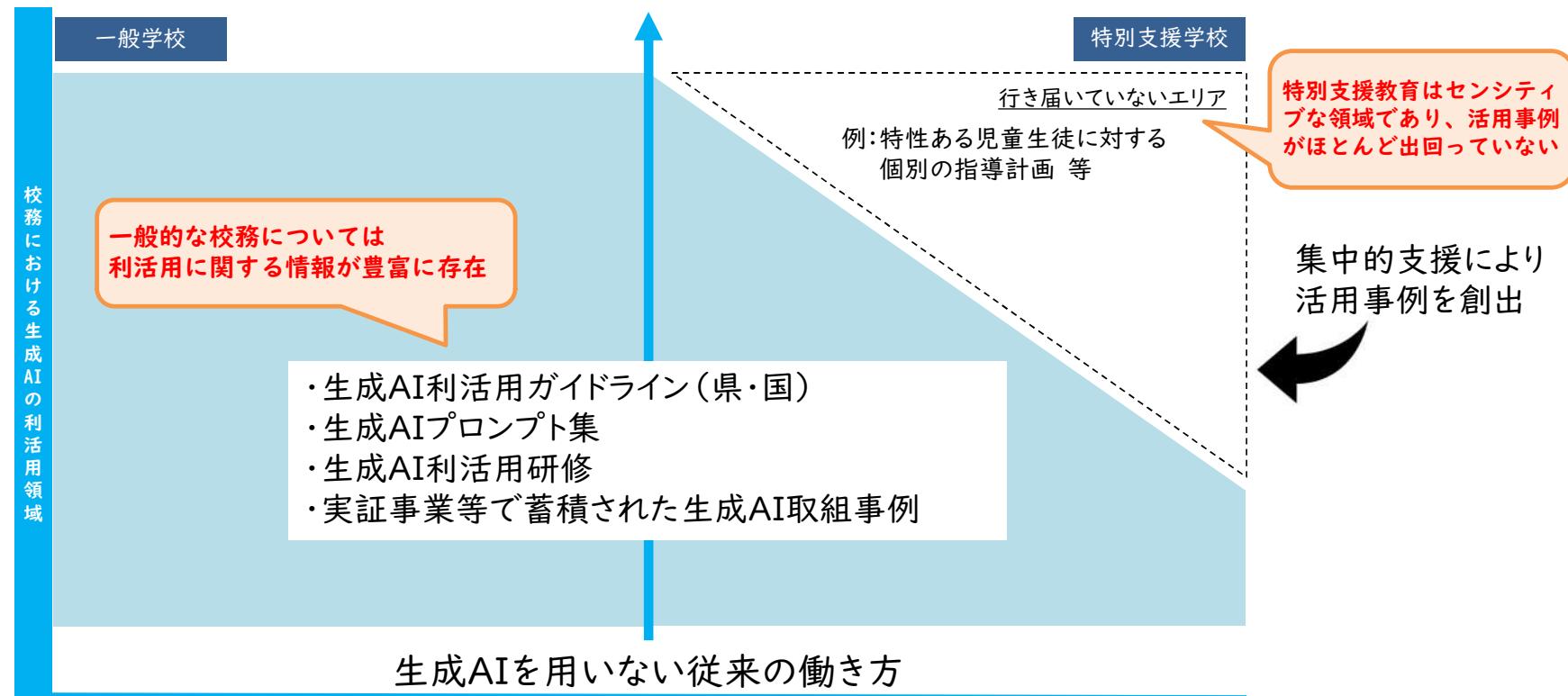
生成AI利活用に向けた取組(② 生成AIパイロット校の指定)

- 生成AIの利活用を推進するため、県立学校に生成AIパイロット校を指定
- パイロット校として特別支援学校を指定し、生成AI活用事例の創出を図る

■特別支援学校を実証フィールドとする理由

- 生成AI利活用の参考となる活用事例が不足しているため、事例の創出を図る

【目指す姿】 生成AIと“一緒に”業務を遂行する働き方

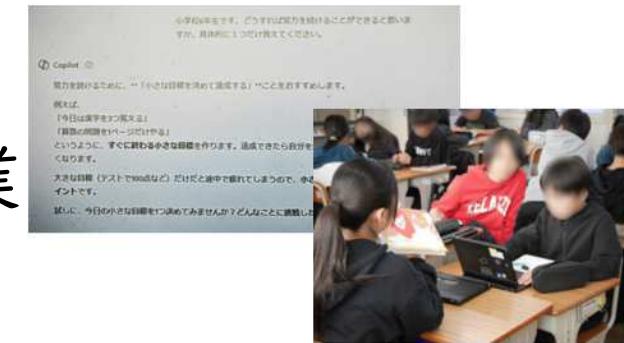


学習活動における実践（小学校）

○伊万里市立立花小学校

スーパーティーチャーによる公開授業（道徳科）

道徳的価値に関わる生成AIの回答を自分の判断材料の一つとして、友達と議論する授業



○鳥栖市立基里小学校

スーパーティーチャーによる公開授業（体育科）

バスケットボールのパスに関する「問い合わせ」を生成AIに投げかけ、提案された練習方法を試しながら技能を高めていく授業



学習活動における実践（中学校）

○白石町立白石中学校

文部科学省「AIの活用による英語教育強化事業」公開授業

英会話、英作文添削、英文解説等において、AIアプリ、

Chat GPT、Geminiを活用した授業

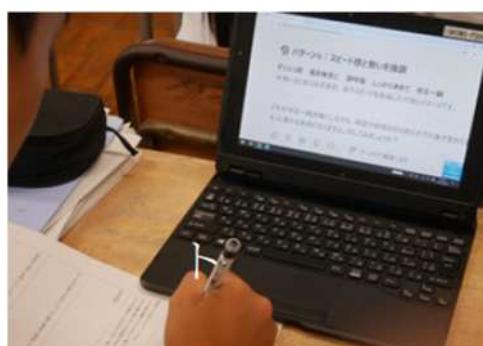
○佐賀市立城北中学校

スーパーティーチャーによる公開授業（国語科）

生成AIの改作案を参考に、自分が伝えたい

事柄や大事にしたい印象を明確にして、

自作の短歌を推敲する授業



○武雄市の取組

令和5年度文部科学省「リーディングDXスクール事業」生成AIパイロット校（川登中）

- ・英語科・社会科・情報モラル学習など、生成AIを活用した授業（授業だけでなく、校務での利用の研究も行った。）
- ・現在も、技術科・数学科など様々な教科での活用を広げている。

令和7年度文部科学省「校務利用にかかる生成AIパイロット校」（朝日小学校、御船が丘小学校）

校務利用による生成AIを活用した取組の研究

※武雄市の取組については、こちらから

[“https://sites.google.com/school.city.takeo.lg.jp/idx/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0”](https://sites.google.com/school.city.takeo.lg.jp/idx/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0)



学習活動における実践（高等学校）

○佐賀県立佐賀東高等学校

教科リーダーによる公開授業（国語科）



自分の班の誤読に気づく起点とすることと、他グループに説明する際の表現を推敲うすることを目的に、読解内容と生成AIの作成した要約とを読み比べる授業

【生成AI活用のポイント】

- ・自分たちの読解と生成AIの作成した要約のどちらが本文により即しているかを考えることで、さらに内容を細かく読むことができる。
- ・生成AIは、プロンプト次第で本文の記述とは異なる内容を回答することもあり、生成AIを活用する際の注意点に気づくことができる。

【テーマ】次年度の取組について

① 児童生徒がICT活用を進めるための方策

- ・ 教科リーダーによる指導事例の創出・共有（県立）
- ・ エリアリーダーによる支援の強化（市町立）

② 事例収集と普及展開の在り方（県立・市町立）

- ・ 教科リーダー・エリアリーダーを中心に、各教科や校務DXに関する活用事例を提出。
- ・ さがのICT教育サイト「SAGA Eコネクト」の普及

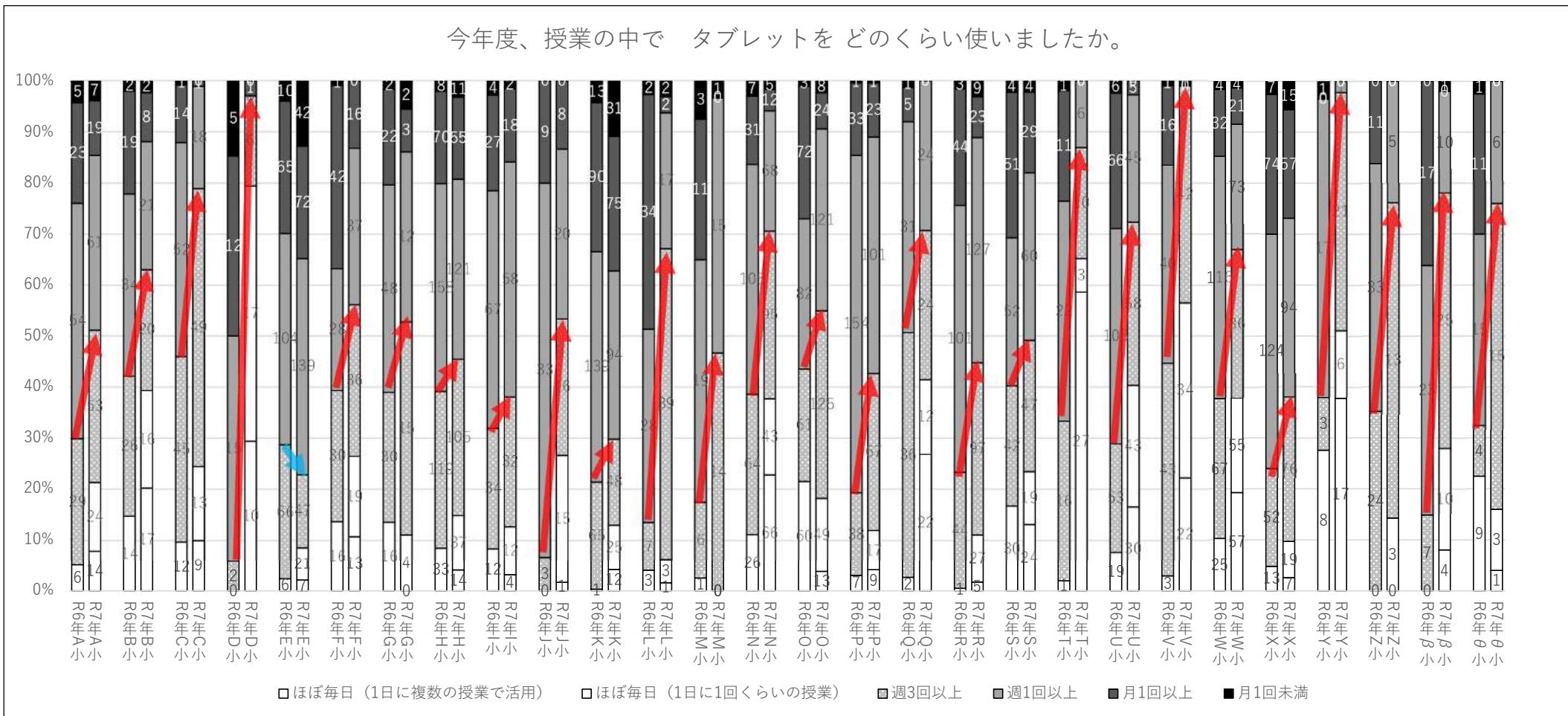
教科リーダー … 県立高校の各教科4名程度を選出。

エリアリーダー … 市町立学校の20名を選出。

【紙面報告】

【重点校の児童による回答】

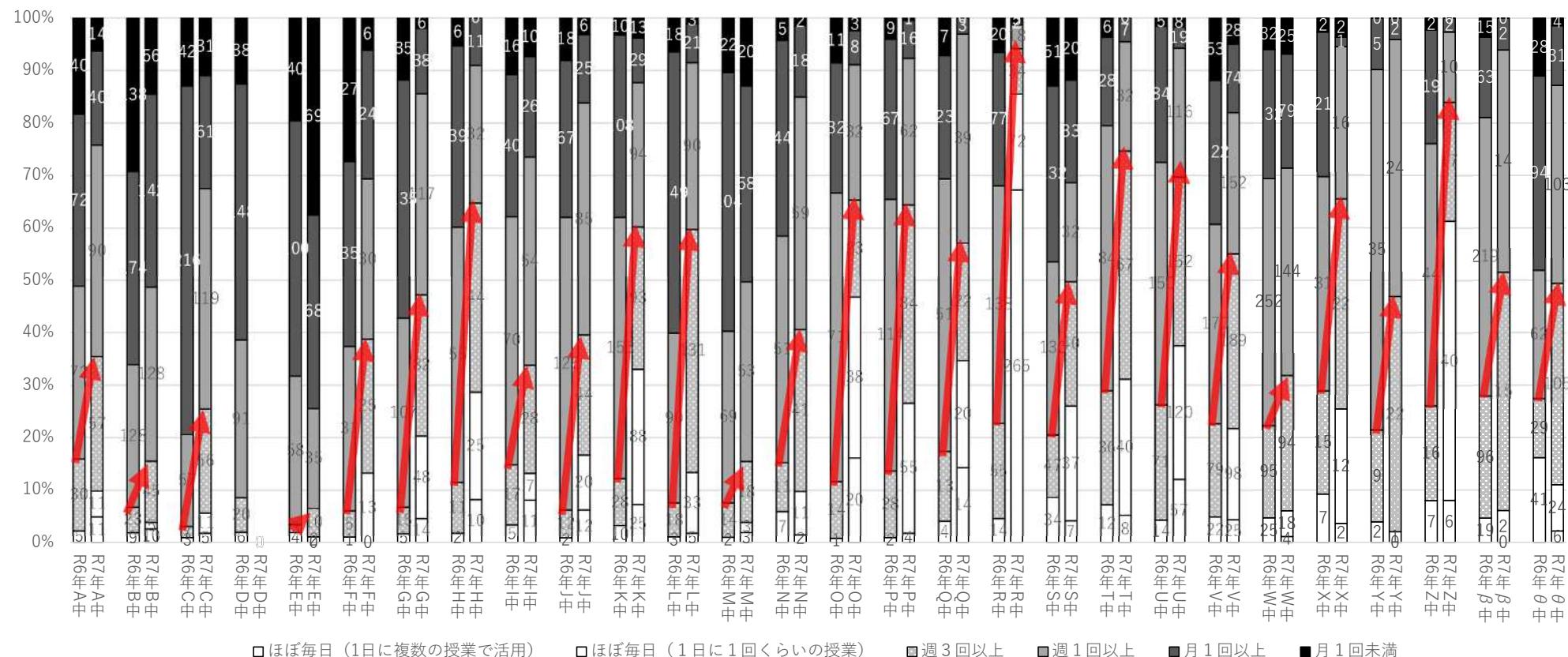
授業の中でPC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。



【重点校の生徒による回答】

授業の中でPC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。

今年度、授業の中で タブレットを どのくらい使いましたか。(中学1～3年生)





SEIRENKATA 学びの進化と飛躍

ベーシック

アドバンスト

マスター

2期生(高校1年生)

ベーシックプログラム



半導体回路設計

CAD

AI画像分析

3Dモデリング

プログラミング

ベーシックプログラム成果発表会

学びの集大成！
ベーシックプログラムの

令和7年12月20日(土) MAIC SAGA

SEIRENKATA2期生70名が、半導体回路設計、プログラミング・AIの学び等、ベーシックプログラムで身につけた力を存分に発揮した。



1月よりアドバンストプログラムでさらに学びを深化！

- アドバンストプログラムの学び(1月～3月)

NOT回路、NAND回路の入出力特性、生成系AIによるプロンプトエンジニアリング演習

1期生(高校2年生)

佐賀県高校生DI選手権大会

SAGA ものスゴ
フェスタにて開催！

SEIRENKATAアドバンストプログラムの集大成！



①デジタル×地域創生コンテスト

-100年後の佐賀を創る!
100年後の佐賀をテーマに、地域が抱える課題の解決に向けてデジタル技術を活用し、どのような価値を創出できるかを提案し、その内容を競った。

②半導体回路設計コンテスト

1 CIRCUIT DESIGNER でタイムアタック!

2 NAND回路設計コンテスト～スピード編～

1 メタバース上で半導体製造の速さを競った。
2 半導体設計用のCADソフトを使用して、NAND回路設計の速さと正確さを競った。

③プログラミングコンテスト

Webアプリケーションを開発するための環境を構築。コマンドの正確性やエラー対応への柔軟性を競った。

令和7年8月24日(日) SAGAアリーナ、サブアリーナ

R7.9月より開講！

マスターprogram

自らの興味関心に合わせて
コース別履修を実施！

半導体回路設計コース

インバータやNAND回路の設計経験を基礎に、8個のトランジスタを使用したオペアンプの設計を行う。



オペアンプ設計

プログラミングコース

環境構築のノウハウやプログラミングスキルを活かし、本格的なオリジナルWebサイトを作成する。



Web開発

AI・データサイエンスコース

AIの仕組みと学習手法を習得する。さらに、AIを用いて佐賀県の現状を分析し、未来を予測する。



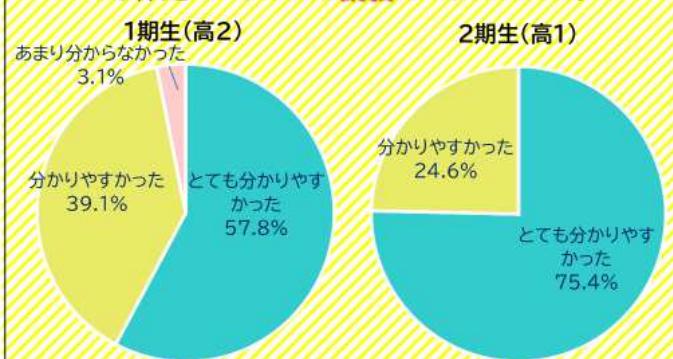
クラスタリング



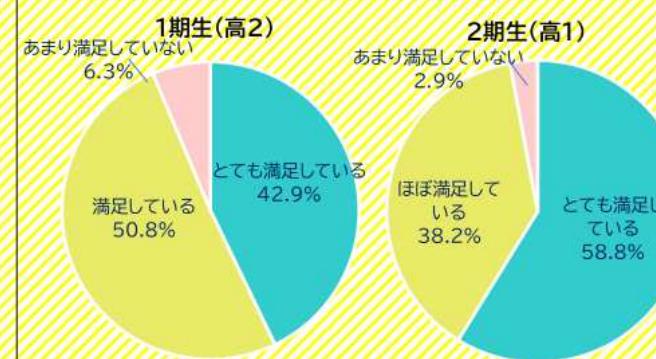
SEIRENKATA受講者 アンケート結果抜粋

回答数: SEIRENKATA1期生(高校2年生) 64名
SEIRENKATA2期生(高校1年生) 69名
実施期間: 2025年9月

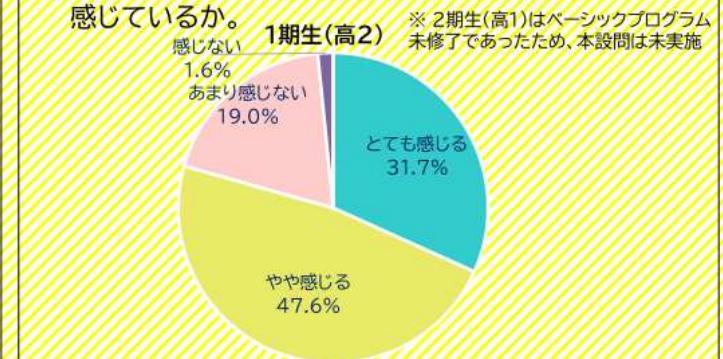
Q.伴走コーチによる講義はどうだったか。



Q.これまでのSEIRENKATAの満足度はどうか。



Q.アドバンストプログラムを通じて自分の成長を感じているか。



Q.DI選手権についての感想を自由に回答してください。

- 周囲の人たちが去年よりもレベルアップしていることを実感し、刺激を受けた。
- 今年はものスゴフェスタとコラボしていたため、多くの人に競技を見てもらえてよかったです。
- 競技だけでなくコンテスト後のインタビューやブースのボランティア等、貴重な経験をすることができ、ありがとうございました。
- 他校の生徒と半導体を通じて交流することができ刺激となつた。
- 自分の成長を実感できる大会なので、ぜひ来年も出場したい。

Q.成長を感じたエピソードを具体的に教えてください。

- 半導体回路設計が速くなったことをタイムで実感した。
- 半導体回路設計の仕組みが大まかではあるが、理解できた。
- 無知の状態から半導体やプログラミングの環境構築等理解して行うことができた。
- 自力でプログラムを組んでWEBの環境構築ができるようになった。
- 日常の中で地域の課題について意識するようになった。
- 人前で話すことや提示資料の作成等、プレゼンテーション能力の向上を実感した。

成果

伴走コーチによる講義やSEIRENKATAに対する満足度について、1期生・2期生ともに9割以上の受講生から肯定的な評価を得ており、学びの充実感や達成感を提供できている。

「将来、佐賀で活躍したい」という気持ちは芽生えたかとの設問では、1期生の90%以上が「強くそう思う」「ややそう思う」と回答しており、将来佐賀で活躍する意欲の醸成に寄与している。

DI選手権大会を観覧した高等教育機関や企業の有識者からは、受講生のスキルに驚きの声が寄せられ、本プログラムが最先端のデジタル技術習得に貢献していることが確認された。

課題

講義内容ごとにみると理解が追い付いていない受講生が一定数存在しており、フォローや次年度に向けた講義のブラッシュアップが必要。

特別講義の参加促進に向け、講義開催日程の調整や早めの案内を行うとともに、開講の意義や参加メリットを具体的に受講生に伝える必要がある。

R8年度

SEIRENKATAの完成年度！
学びと実践を融合させ、未来を担うDI人材の輩出を目指す！

【佐賀県立伊万里実業高等学校】文理融合型教育による「いまりん6次化」実践プログラム

目的

- 地域から求められる専門高校として、**地域資源を活用した「6次産業化」を実践できる人材育成**が必要
- 多様化する進路ニーズに適応した学びが必要

カリキュラム概要

6次産業化人材を育む文理融合型の学科・教科等横断による専門教育を推進する実業系高等学校の新しい教育モデルの確立と普及

新しい教育方法

学科の枠を超えた学び合いと外部講師の活用

伊万里実業高校コンソーシアム

高等研究機関(大学等)
専門家・実務家等
地元自治体等
地元住民・企業等

コーディネータ
連携・協働

商業科
情報処理科
伊万里実業高校 農林キャンパス 商業キャンパス
森林環境科
生物化学科

取り組み状況

【5学科共同課題研究（竹プロ）】
全学科から総勢25名の生徒が協力しながら、**放置竹林問題の解決に向けた研究**に取り組んでいる。意見交換の場では、Zoomの活用などDXの導入により、円滑なコミュニケーションと効率的な情報共有が実践できている。

【課題研究発表会】
両キャンパスの生徒が課題研究の成果を発表することによって、**農業と商業を学んだ生徒同士の学び合い**を目指す。

【ビジネスプランコース】
外部講師を活用した課題研究をとおして、**地域社会と連携しながら6次化の視点を有する人材育成**を目指すことを目的に授業を実施した。



(図1)
農業科の生徒が商業科の生徒に測量を教える様子



(図2)
商業科の生徒が農業科の生徒に簿記を教える様子

文理融合型教育による「いまりん6次化」実践プログラム 中間発表会（i 6フェス）
令和7年12月5日(金) 佐賀県立伊万里実業高等学校（農林キャンパス）

目的

- これまでの調査研究の考察や課題を踏まえ、生徒が地域課題の発見とその解決策の研究に取り組む探究活動の課題と成果を発表する。

内容

- 1年生および2年生による成果発表会
- 3年生によるビジネスプランおよび5学科共同課題研究の実践発表
- 文部科学省による基調講演

当日の様子

【1年生および2年生による成果発表会】

1年生は「地域課題の発見をテーマとした個人発表、2年生は「地域課題の解決」をテーマに代表グループによる発表を行った。



生徒それぞれが与えられた役割をこなしながら、グループ内で発表を行った。社会人の方々に対面やオンライン（Zoom）で参加いただき、専門的な視点から助言をいただいた。



「空き家の解決策」や「伊万里への日帰り観光客について」などの研究テーマがあり、学年代代表の6グループによる成果発表を行った。

【ビジネスプランコースおよび5学科共同課題研究の実践発表】

ビジネスプランコースは、「お菓子の神様はバズりたい～21世紀のシュガーロードの始まりは伊万里から～」のテーマで発表を行った。この研究は、産業教育フェアビジネスプランコンテストにおいて奨励賞を受賞した。また、5学科共同課題研究は、「地域の放置竹林問題の解決に向けた5学科共同課題研究」について発表を行った。



短編物語や観光プランモデルを制作し、コーディネーターが開発したソフトを活用して、協働研究を行い、実践力を高める取り組みを実現した。



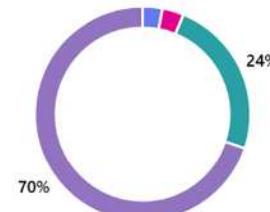
放置竹林問題という共通の地域課題をテーマに、5つの学科がそれぞれ異なる視点から解決策に取り組み、横展開を意識した課題研究となっていた。

R7年度教育DXスタートアップに係る「周知状況・利用実績アンケート（デジタル採点支援システム）」 7月実施（回答数1834）と12月実施（12/23 8:00現在 回答数1265）の比較

83. デジタル採点支援システム「百問線乱」で、今年度何回採点を行いましたか。

母数1246

● 10回以上	37
● 6～10回	40
● 1～5回	298
● 0回	871

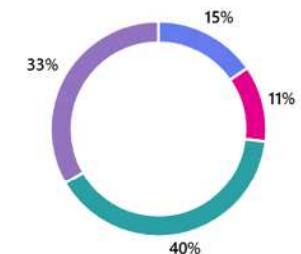


82. デジタル採点支援システム「百問線乱」で、今年度は何回採点を行いましたか。

母数552

● 10回以上	85
● 6～10回	63
● 1～5回	220
● 0回	184

安定して活用が
継続している。

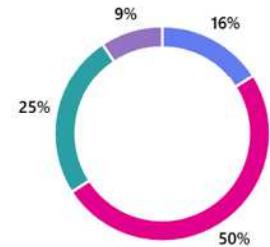


90. デジタル採点支援システムを利用する前と後では、採点時間はどの程度削減しましたか。

（生徒登録と答案返却のための作業時間は除く）

母数375

● 75%程度削減	60
● 50%程度削減	187
● 25%程度削減	93
● 変わらなかった・増えた	35

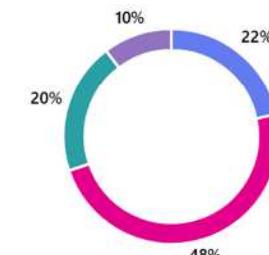


87. デジタル採点支援システムを利用する前と後では、採点時間はどの程度削減しましたか。
（生徒登録と答案返却のための作業時間は除く）

母数368

● 75%程度削減	80
● 50%程度削減	177
● 25%程度削減	73
● 変わらなかった・増えた	38

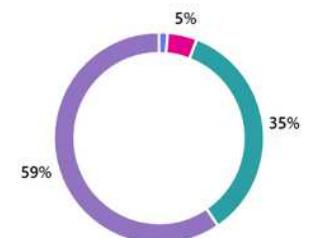
採点設定や操作
への慣れが窺え
る。削減した時
間は教材研究へ
が多い。



97. 採点済み答案等のデータ返却（マイページ連携）によって、点数や正解率など素早いフィードバックとペーパーレス化が可能となります。今年度こちらの機能を何回利用しましたか。

母数375

● 10回以上	5
● 6～10回	17
● 1～5回	130
● 0回	223

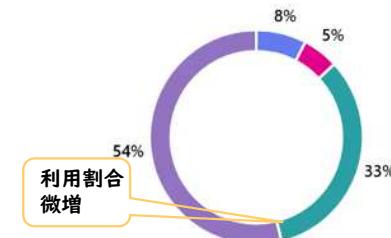


92. 採点済み答案等のデータ返却（マイページ連携）によって、点数や正解率など素早いフィードバックとペーパーレス化が可能となります。今年度こちらの機能を何回利用しましたか。

母数368

● 10回以上	28
● 6～10回	20
● 1～5回	122
● 0回	198

校内で実施した
模擬（資格）試
験の結果を即時
返却し、成績分
析を活用した授
業実践もある。



バズらせよう！ あなたのアイデア！

30秒で魅せる 高校生活 CM&プレゼンコンテスト

注目①

TikTok世代の高校生たちが、高校生活の輝く場面を発信！

高校生活をCM風に動画で表現し、制作に込めた思いや工夫をプレゼン！

多数の応募作品のうち、一次審査を通過した6グループがコンテストでプレゼンしました！

優勝



鳥栖商業高校
「Turn Left, Go Right」

準優勝



鹿島高校
「田舎でいいじゃないか！」

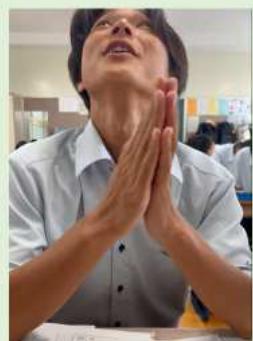
第3位



佐賀商業高校
「佐商生情報処理科の1日！」

同時開催！

生産物販売会



伊万里実業高校
「検定5分前あるある」



鹿島高校
「想いよ、届け！ Dear my family」



伊万里実業高校
「教師との交換日記」

本選出場6グループの作品はこちら↓



日時 12月13日(土)
13:00~15:30

場所 ゆめタウン佐賀
イーストコート

高校生が開発・生産した、農産物、チップス、焼き菓子、手作りの小物類など販売しました！